

連載 登録医のご紹介

ベルランド総合病院広報誌「ベルフォーラム」

# Bell Forum

地域と職員とともに栄えるチーム

医療最前線

# 脳卒中

2016  
Winter  
No.54

24時間365日  
受け入れていきます

## TOPICS

新病院建築による機能強化と実績向上

大阪府がん診療拠点病院に対する施設訪問

中保健センターとの協働開催 健康塾

ボランティア「ベル・フレンド」平成28年度堺市功績者（社会福祉関係）として表彰

社会福祉法人悠人会 ベルライブ 山田敬子 施設長 春の叙勲「瑞宝単光賞」受章

感染対策 感染症を防ぐ

『日本糖尿病療養指導士』新たに4名が取得

# 脳卒中 24時間 365日 受け入れ

疑い患者は

本邦では現在、65歳以上が3人に1人と高齢化社会がすすんでおり、今後さらに高齢化がすすむと考えられるため、脳梗塞を含む脳卒中は高齢化社会の中で増加すると予想されます。2014年の厚生労働省患者調査によると、全疾病の第3位、死因別の第4位、要介護の原因疾患に至っては最も多い第1位である脳卒中は、一度発症すると神経後遺症による日常生活動作の制限が生じ、生活の質も低下します。発症の予防はいうまでもなく、ひとたび発症した際の早期発見・早期治療が求められます。

近年、脳卒中治療の進歩により様々なアプローチが可能となっています。特に脳梗塞の分野においては、超急性期脳梗塞に対する遺伝子組み換え組織型プラスミノゲンアクチベーター (recombinant tissue-type plasminogen activator; rt-PA) による血栓溶解療法の有用性は以前にも報告済みですが (ベルフォーラム No.45, Autumn 2014 参照)、さらに血管内治療による血栓除去術の効果が明らかになってまいりました。

発症から早期診断し治療までの迅速な移行は極めて重要です。当院ではこれを実現するため、限られた時間の中で最小限に必要な、無駄のない「診察～診断～治療」の過程がアルゴリズム化されており、これまで症状の回復が困難であった脳梗塞が、回復可能なものとなってきました。24時間365日、受け入れ対応可能な態勢である当院での脳卒中に対する取り組みを、脳梗塞治療を中心に紹介します。



### 当院の脳梗塞症例救急搬送時のアルゴリズム

脳梗塞患者が当院に搬送された際、まず救急診療部スタッフによる採血検査、レントゲン、心電図、バイタルサインの確認のほか、客観的評価として一般的に用いられる、National Institute of Health Stroke Scale(NIHSS) スコアによる神経異常所見をチェックし、異常所見が発見された場合、速やかにCT/MRIでの病変検索が行われます。

脳梗塞と診断されれば、画像上の早期虚血病変を Alberta Stroke Program Early CT score(ASPECTS) を用いて評価し、発症からの時間や適応禁忌事項の有無をチェックして治療方針を決定、速やかに治療へ移行します。

脳梗塞は、発症早期の時点では、未だ脳組織の可逆性が一定時間保たれている部分 (ischemic penumbra) があり、特に発症から4.5時間以内の症例に関してはこれを安全に救出させ予後を改善させることが可能なケースが存在します。当院でも慎重に適応を吟味し、rt-PA 静注療法を行ってまいりました。しかし、脳主幹動脈閉塞例では無効なこともあり、また4.5時間以上経過したものを中心に非適応となることもあります。

近年、8時間以内であれば、血管内治療の有効性が報告されており、さらにはrt-PA 静注療法の適応症例に血管内

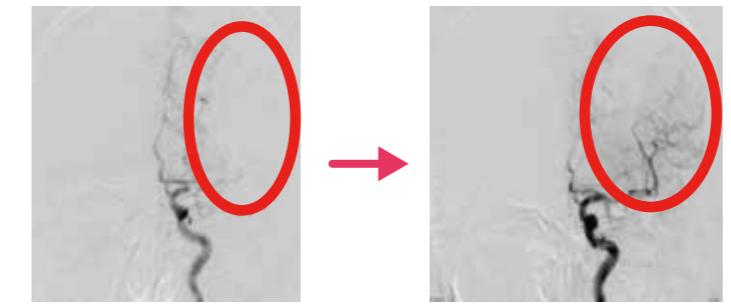
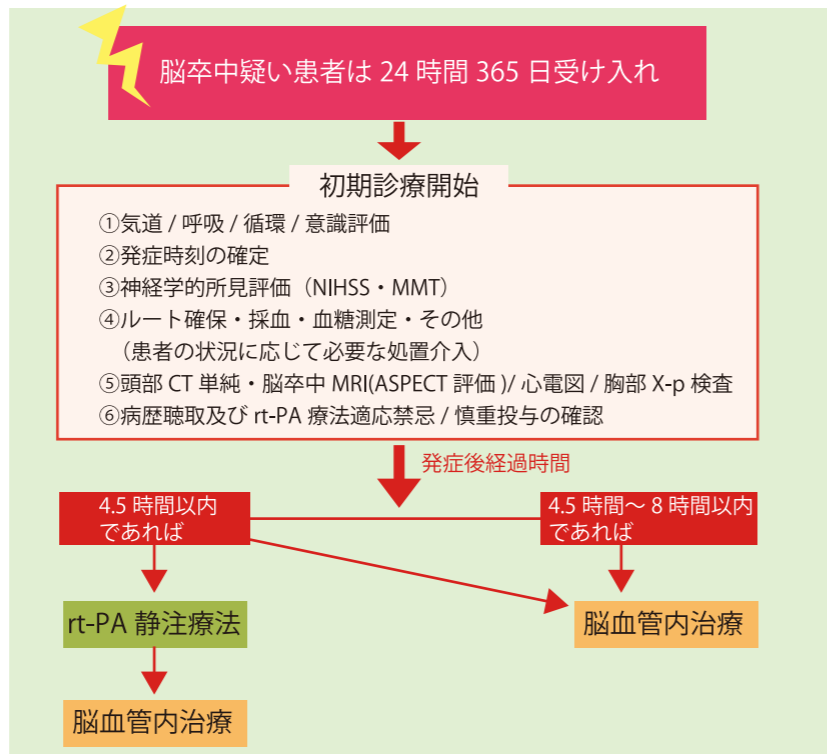
治療を併用することで予後を改善させるのに有用であることが世界的に確認されています。当院でも、近年の超急性期脳梗塞に対するこれらエビデンスに基づいた、世界的にスタンダードな手法に基づいて治療を行っております。

### ステントリトリバー

上記の治療成績に大きく寄与した要因のひとつに、より血管再開通率の高いステントリトリバー (左下図) が使用可能になったことがあげられます。ここ数年、これを用いた血管内治療の良好な治療成績が欧米の5つのRCTで報告され、以前のrt-PA療法単独時に比べ、特に発症から6時間以内のrt-PA静注療法に血管内治療を併用した症例で、有効再開通率は約80%、90日後の日常生活動作が可能なレベルまでに改善する割合が50-70%と、大幅な改善がみられています。

### 終わりに

世界的に確立された、予後を改善する脳梗塞治療のエビデンスの下、治療手段だけに限らず、当院で行われているような発症～診断～治療の過程を短時間で行うことで機能予後はさらなる改善が見込まれます。熟練されたスタッフとのチーム医療を形成し、急性期脳卒中中で重要な早期のリハビリテーションを質・量ともに確保しています。さらには回復期リハビリテーション病院との連携、当院登録医との慢性期再発予防の連携に至るまで、切れ目のない治療を行っております。

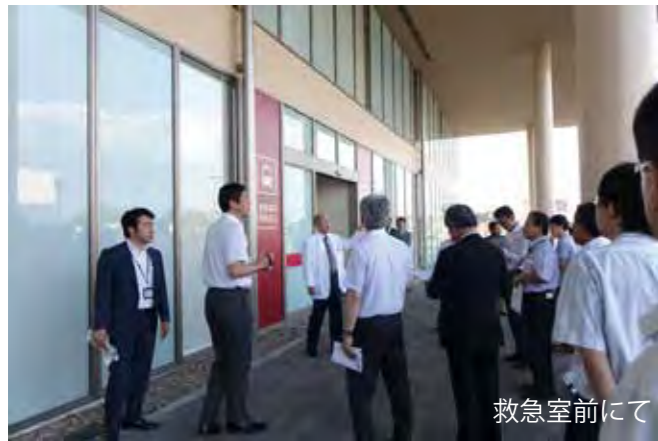




# より迅速に より安全に

新病院建築による  
機能強化と実績向上

一般社団法人日本医療福祉設備協会から  
病院見学に来られました



救急室前にて



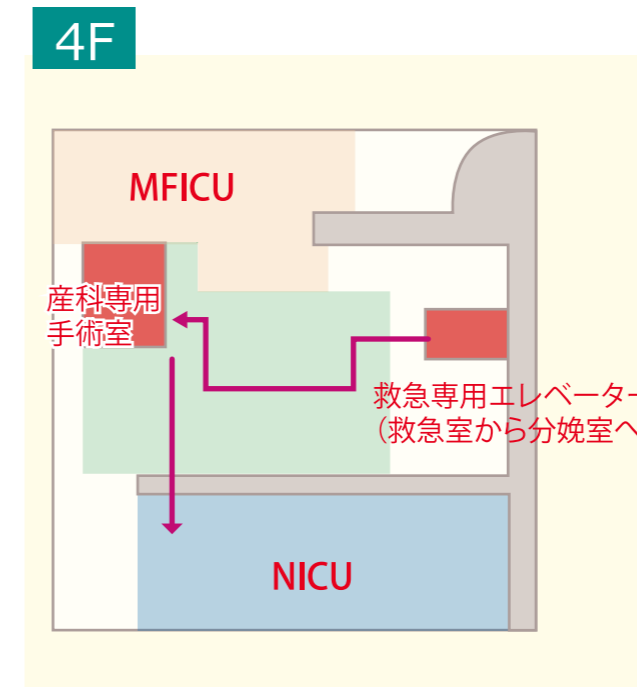
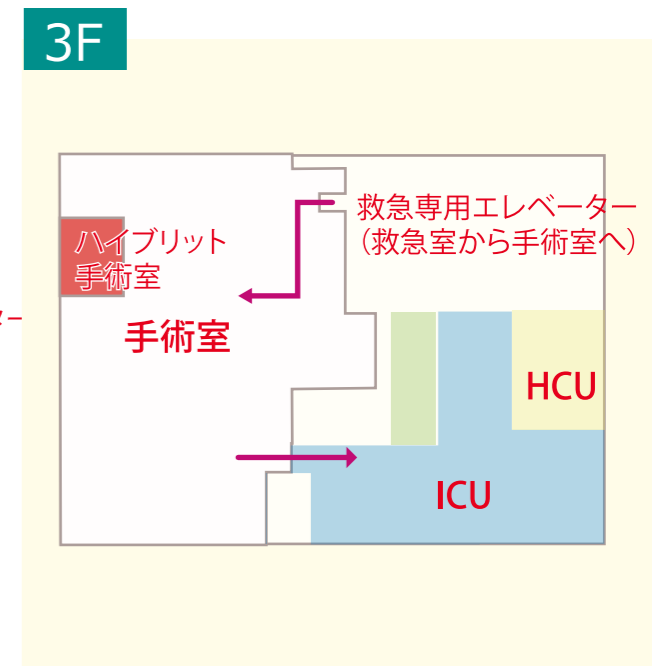
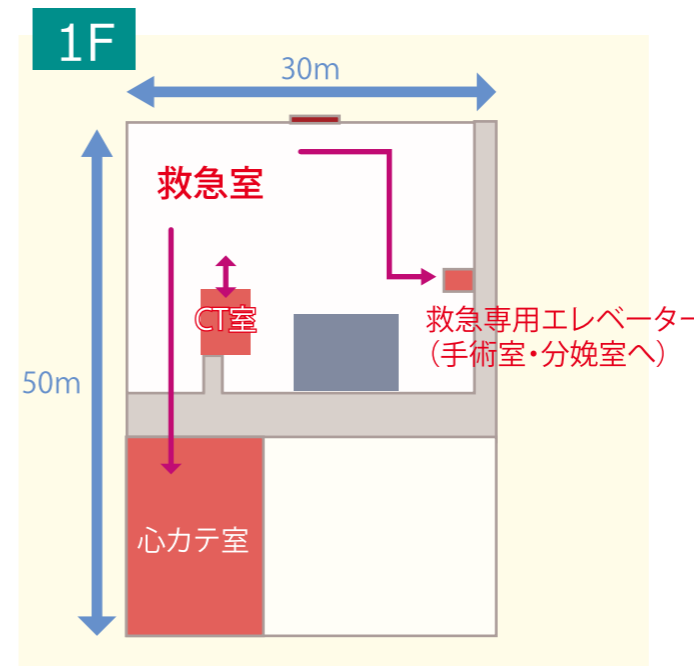
手術室前にて

平成 28 年 9 月 9 日、一般社団法人日本医療福祉設備協会から 50 名の方が、全国より当院の見学に来院されました。当協会は、昭和 28 年に設立され、日本の病院設備の研究、改善および普及を図ることを目的としており、病院経営者、医師、看護師、設備管理者、栄養士、技師（士）や、関係分野の学識経験者、建築・設備設計者、施工者、さらにメーカーや商社など医療、福祉および保健に関する設備・機器に関係のある方々が会員となっております。見学者も建築会社や設計事務所の設計担当や設備担当者、医療機器メーカー、病院の設備担当者など多岐にわたる方々でした。

当日は、新病院を設計施工いただいた清水建設の方々と直前まで見学ルートの下見や現場のアピールポイントについて綿密に打ち合わせをおこない、午後からの見学に備えました。

2 年前に新築した新病院のコンセプトの中には、病院機能の向上のほかに「パートナーがゆとり・安心・安全を得られる療養環境とプライバシー保護に配慮

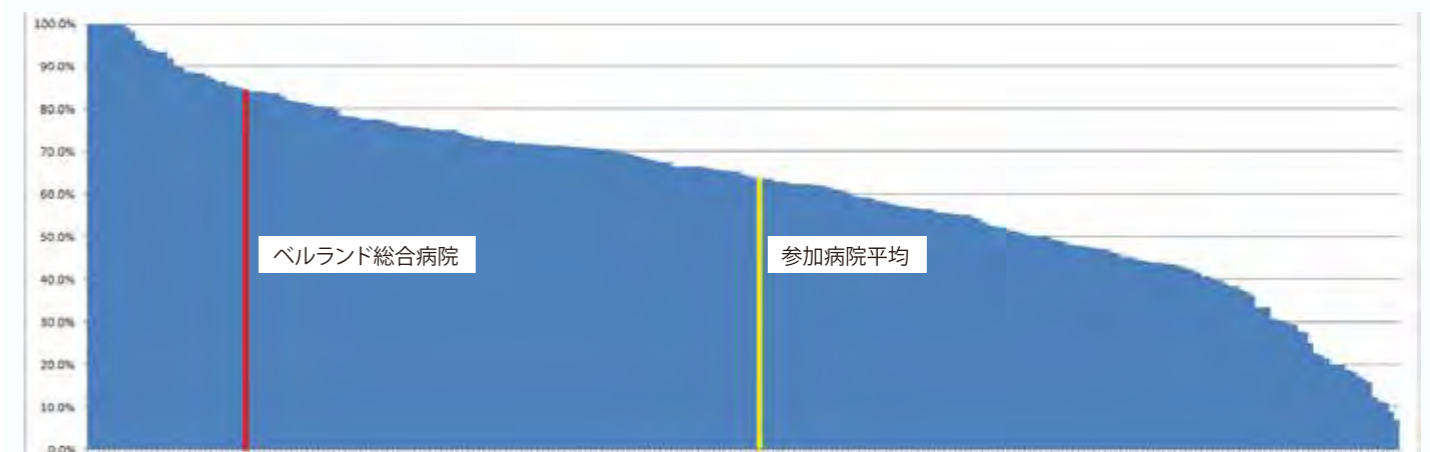
する」「職員が快適かつ効率的に働ける職場環境づくり」という患者満足（CS）と職員満足（ES）の向上を掲げており、特に患者動線に関しては旧病院と比較して見違えるほど短縮されました。救急室から CT 室・血管撮影室、救急室から手術室や母体集中治療室、手術室から集中治療室、分娩室から新生児集中治療室など、特に救急搬送された患者で一刻を争うような状況に対しても迅速な対応ができる設備を備えております。院長からの病院概要プレゼンや現場見学時にも、見学者の方々は非常に興味深くこれらの説明を聞き入っておられました。見学後も、協会理事の方からは計画段階から職員の想いと工夫の詰まった施設で大変勉強になりましたというお褒めの言葉をいただきました。今後はこのすばらしい施設を地域で有効に活用いただけるよう病院運営をおこなっていきたくと考えております。



診察から検査・手術・入院までの動線が改善され  
緊急を要する患者さんに対して、  
より迅速な対応が可能になりました。

- 急性心筋梗塞 (来院からカテ室入室までの時間)  
旧病院平均 52分 → 新病院 27分に短縮
- 上下移動がなくなり最短距離で移動可能  
救急専用エレベーターあり
- 手術室から集中治療室への移動が最短距離で可能
- 母体救急搬送も専用エレベーターで  
産科専用手術室へ移動可能
- 緊急帝王切開後も、  
最短距離で新生児病棟へ移動可能

## 急性心筋梗塞の病院到着後90分以内の初回経皮的冠動脈治療実施割合



当院は、平成23年度から「自院の診療の質を知り、経時的に改善する」ことを目的とした、日本病院会のQIプロジェクトに参加し医療の質の測定、評価、公表しております。この事業は、平成27年度で全国の343病院が参加しています。指標の1つである「急性心筋梗塞の病院到着後90分以内の初回経皮的冠動脈治療実施割合」をみても、27年度で参加病院平均64%に比べて、当院は84%と迅速な治療の開始ができていることがわかります。

# 登録医のご紹介

## 岡本内科 院長 おかもと たかし 岡本 隆司 先生

内科・呼吸器内科・循環器内科



星座：おとめ座 血液型：AB型  
趣味：プロ野球観戦

住所：大阪府堺市東区白鷺町3丁目3番7号  
TEL：072-286-5893

	月	火	水	木	金	土
9:00～12:00	●	●	●	●	●	●
14:00～16:30 (訪問診療・往診)	○	○	○	○	○	/
17:30～20:00	●	/	●	/	●	/

内科診療時間…月～土：9:00～12:00

月水金：17:30～20:00

訪問診療・往診…月～金：14:00～16:30

日祝、火・木・土 午後は休診です。

※予約制ではございません。来院された順番に診察いたします。  
※在宅医療（訪問診療・往診）を初めて御希望される方は、まずは当院にご連絡ください。

### Q. 医師を目指した動機は？

頑張って地域医療を行っていた父の背中をみて自然と。

### Q. 診察の際に心がけている事は？

かかりつけ医として、全身を総合的に診断するように心がけています。そのために、丁寧にお話を聞き診察を行うことを大切にしています。

### Q. 地域医療について

当院は、身近に何でも相談できる地域のかかりつけ医を目指しています。当院で対応できない検査や治療に関しては、専門病院と連携して行います。

### Q. ベルランド総合病院への希望・要望

24時間の救急体制が整っているため、救急搬送が必要な時にとっても頼りになります。

### Q. 最後に一言お願いいたします

約40年行ってきた父から継承し、約3年たちました。これからも末長く信頼される医療を行っていきたいと思います。

### 医療従事者向け セミナー

## 第20回 ベルランド地域医療懇話会

日時：平成28年11月12日(土) 15:00～16:30

場所：ベルランド総合病院 地下1階 AIFホール

開会挨拶 ベルランド総合病院 院長 亀山 雅男

#### 当院診療科のご紹介

座長 ベルランド総合病院 副院長・地域連携部長 倉都 滋之

①「当院の尿路結石に対する治療戦略」 副院長 泌尿器科 部長 大町 哲史

②「C型肝炎治療の進歩」 副院長 消化器内科 部長 安辰一

③「循環器疾患の up to date」 副院長 循環器内科 部長 片岡 亨

④「腹部救急疾患に対するIVR：出血性病変を中心に」 中央放射線センター 放射線診断科 部長 磯田 正之

閉会挨拶 ベルランド総合病院 副院長 謝 慶一

※懇親会終了後、情報交換会を予定しています。  
※大阪府医師会生涯研修システムに登録しております。

問い合わせ先：ベルランド総合病院 地域医療連携室

TEL：0120-13-9215 FAX：0120-53-0096

### 新規登録医 登録件数 387件 H28.10.15 現在

東区	永山リウマチ整形外科 ながやま よしお 永山 芳大 先生
南区	ぐんぐんキッズクリニック分院 ふなき かつえ 舟木 克枝 先生
大阪狭山市	半田あつたかクリニック ぬかた まさる 額田 勝 先生
大阪狭山市	おざさクリニック おざさ よしひさ 小笹 義尚 先生
大阪狭山市	砂川医院 すなかわ みつる 砂川 満 先生

### 医療従事者向け セミナー

11月21日(月)	第15回こつかん勉強会 ベルランド総合病院 AIFホール
1月21日(土)	ベルランド看護セミナー ベルランド総合病院 AIFホール
1月26日(木)	中区循環器懇話会 ベルランド総合病院 AIFホール

## Topics

### 2016年8月6日 第7回南大阪医学教育セミナーを開催しました

講演Ⅰ：胎児循環生理：胎児の心臓で何が起きているのか  
近畿大学医学部 小児科学講座 稲村 昇先生

講演Ⅱ：妊婦健診・産後ケアの未来  
大阪大学大学院医学系研究科  
産科学婦人科学講座 教授 木村 正先生



稲村 昇先生



木村 正先生

### 2016年8月27日 第16回堺・泉北呼吸器カンファレンスを開催しました

一般講演：診断に難渋した肺癌の2例  
ベルランド総合病院 呼吸器内科 小川 未来

特別講演：general oncologist からみた肺癌薬物療法の進歩  
神戸大学医学部附属病院 腫瘍センター  
特命准教授 向原 徹先生



向原 徹先生

### 2016年9月10日 第3回泉北地区認知症カンファレンスを開催しました

一般講演：病院におけるBPSDがある方への対応  
社会医療法人美杉会 介護老人保健施設 美杉  
看護師長 認知症看護認定看護師 西池 靖子様

特別講演：認知症の診療～ご本人らしさを保つために～  
東海大学医学部 内科学系神経内科学  
准教授 馬場 康彦先生



西池 靖子様



馬場 康彦先生

## Topics

### 大阪府がん診療拠点病院に対する施設訪問

平成28年8月31日に大阪府がん診療拠点病院に対する施設訪問が行われました。これはがん診療における事例収集、課題把握等を行うとともに、各拠点病院間の情報共有や課題への改善策の検討を通して、がん診療の質向上を図ることを目的とするもので、大阪府立成人病センター総長をはじめ都道府県がん診療連携拠点病院職員、大阪府がん対策グループ職員、患者会代表など総勢8名が来院されました。

院内見学のあと、亀山院長からがん診療への取り組みを中心に説明がなされ、終始和やかな雰囲気のもと意見交換が行われました。特に悪性腫瘍手術件数、がん相談や緩和ケアの体制については高い評価をいただきました。



院内見学：外来化学療法室にて

当院のがん診療について院長より説明いたしました



より一層の質向上に向けて期待のこもった要望もいただきましたので、今後改善に向けて取り組みたいと考えております。

# 中保健センターとの協働開催による 健康塾



平成28年 7月 20日開催  
講演会「がんについて正しく知ろう」  
中区役所4階大会議室にて

昨年度より、堺市長の諮問に応じ、各区が独自の活動を推進する『中区区民評議会』が発足しました。ベルランド総合病院の院長も、公益活動者の立場から評議員として参画しています。

評議会の大きな柱に「誰もがすこやかで、生き生きと暮らせるまちの実現に必要な、市民の健康づくりに資する施策のあり方について」の諮問事項があり、疾病予防や健康増進のための啓発活動を推進していくことが求められています。

一方で、開催日時に関して配慮してほしいとの要望があり、子育てをされている方や勤めておられる方々も参加しやすい曜日や時間に開催することが決まりました。

上記趣旨のもと、中保健センター主催の健康塾において当院医師を派遣することで行政との協力体制が構築されることは、理想的な姿であると実感しております。

ちなみに、第1回は、7月20日（火）午後2時から、中区役所4階大会議室にて「がんについて正しく知ろう」と題して、当院の外科川崎誠康部長がお話ししました。がん医療は高額医療となり、肉体的・精神的にも負担となることから、聴衆の方々も興味深く聞き入っておられました。

第2回は、10月22日（土）午後1時から、当院の阿部乳腺センター長が乳がんについてお話しをさせていただきました。

院長 亀山雅男



日本人に多い  
がんについての話や  
がん検診の必要性について  
お話ししました。

外科 部長 川崎誠康

**正しい知識を知れば  
乳がんも怖くない**

ベルランド総合病院は堺市乳がん検診施設に指定されています。  
乳がん検診の予約は電話で受け付けておりますが、インターネットからでも予約が可能です。女性医師を希望される方は、予約の時にその旨を伝えていただければ対応させていただきます。

## ベルランド総合病院 ボランティア「ベル・フレンド」 平成28年度堺市功績者（社会福祉関係）として表彰

ベル・フレンド 副代表 中尾 泰子



車イスのメンテナンス、月2回のソーイング、病棟への日用品の配布などの活動が評価されたんだなという気持ちに変わってきました。

7月26日当日、池澤代表と深井の中文文化会館（ソフィア堺）に赴きました。いろいろな団体が大勢来られていることにびっくりしましたが、病院ボランティアとしては、耳原総合病院の「風」とわたしたちの「ベル・フレンド」のみでしたので、喜びもひとしおでした。

最後に、14年という期間の中で、様々な方とご縁とご協力があり、現在まで活動が続けられています。ありがとうございました。



堺市社会福祉協議会より「日ごろのベル・フレンドの活動を評価し、堺市に対して功績者として推薦したい」との連絡を池澤代表から受けたのは4月11日のことでした。半信半疑で待っていると、7月上旬に堺市秘書課から平成28年度功労者（社会福祉関係）として表彰したい旨正式な通知が届き、驚くと同時にすぐにボランティア委員書記に報告をしました。当初は、「ベルランド総合病院ボランティアとして活動してまだ14年程度なのに堺市から表彰とは！」というのが正直な気持ちでした。しかし、玄関入り口での声かけ、再診受付機や自動支払機などへの院内案内、計算センターでのお手伝い、

## 社会福祉法人悠人会 ベルライブ 山田敬子 施設長 春の叙勲「瑞宝単光賞」受章



6月30日に生長会・悠人会看護部長会・介護施設長会主催「祝・山田敬子様 瑞宝単光章受章祝賀会」を大阪マリOTT都ホテルにおいて開催致しました。

山田施設長は、永年に渡る看護師経験の中で、平成12年から23年3月まで発展著しいベルランド総合病院の看護部長としてご尽力されました。勤勉で誠実な人柄は、多くの部下や他職種の職員から慕われ、ベルランド看護部の教育の質向上に向け、専門看護師や認定看護師の育成にいち早く着手し、厚生労働省新人看護師研修制度には初年度から手挙げ申請するなど、看護師の継続教育に信念と情熱を持って取り組まれました。平成20年の病院機能評価受審では、看護部教育に対して最も優秀な「5」と評価されたことは、山田看護部長の功績に他

看護部 部長 河村 美枝子



なりません。当時「看護部長室は遅くまで照明がついている」とよく言われました。山田看護部長を筆頭に毎日、看護部運営についての話し合いや時には議論もあり、妥協を許さないエネルギーなリーダーだったと実感しています。

現在は看護理事、ベルライブ施設長として生長会・悠人会にはなくてはならない大きな存在であり、変わらず多忙な日々かと思いますが、引き継いだ部下達は、引き続き信念を持って看護の質向上に向けた取り組みを推進していきます。この度の叙勲を心からお喜び致しますとともに、山田施設長のご健康と今後のますますのご活躍をお祈り致します。



# 防ぐ

## 感染症を

病院に来院する患者さんは、様々な病気をお持ちの方、高齢者や乳幼児など感染症に罹りやすい状態の方が多くおられます。健康な人なら何も起こらない菌でも、抵抗力が落ちた患者さんに感染すると、時に重篤な感染症を引き起こすおそれがあります。

私たち病院職員は、患者さんが病院感染を起こさず回復できるよう、感染防止対策を実施しています。感染症にかからないようにするためには、手指衛生、手袋・エプロンなどの使用、咳エチケットを行うことが重要です。例えば採血の時は、血液に触れる可能性があるため全ての患者さんに対し手袋をはめて対応します。また菌の伝播を遮断するために、処置・ケアの前後は手指衛生を実施しています。手指衛生については、WHO が推奨する 5 つのタイミングを導入し、患者さんと接触する前後にもアルコールによる手指消毒を推進していますのでご理解をお願いいたします。

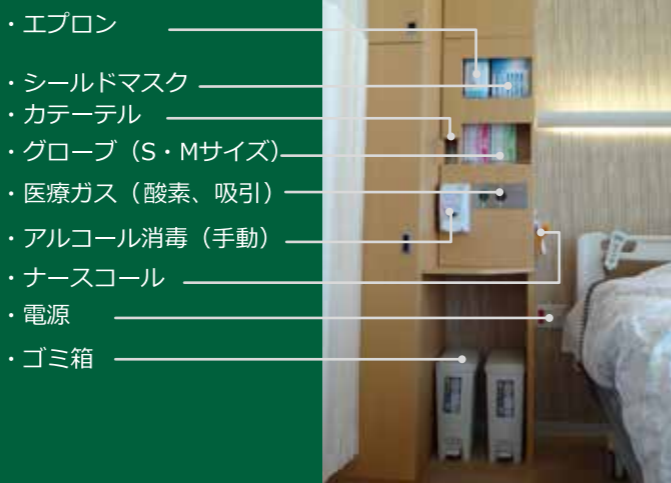
2014 年 9 月に移転した新病院では、感染対策を徹底するために全ての患者さんのベッドサイドにメディカルコンソールを設置しました。これは、感染対策に必要な物が、「取りに行く・準備する」ではなく、「必要なものが、そこにある」というコンセプトを元に設置しています。この棚（メディカルコンソール）には、手袋やエプロン・手指衛生消毒剤など感染防止に必要な物品が入っていて、必要なときにすぐ使用できるようになっています。

また、院内で取り組んでいる感染対策が正しく実施されているかを感染制御チーム（医師・看護師・薬剤師・検査技師）で監視・評価しています。

最後になりましたが、これから流行するインフルエンザ・ノロウイルスなどにもマスク・手指衛生は重要です。患者さんへ感染させない、ご家庭へ持ち帰らない為にもご面会の前後には、手指衛生・咳エチケットのご協力をお願いいたします。

### メディカルコンソール

・・・必要なものがそこにある



手洗いはすみずみまで  
しっかりと



感染管理認定看護師  
山田 加代子

今年の冬も  
元気に乗り切りましょう！

爪の間も忘れないでね



ベルランド総合病院に  
新たに4名の日本糖尿病療養指導士が加わりました

## 日本糖尿病療養指導士



看護師 中田 年恵	管理栄養士 田中 実穂	薬剤師 吉川 侑里	薬剤師 堀岡 杏子
--------------	----------------	--------------	--------------

日本糖尿病療養指導士（CDEJ：Certified Diabetes Educator of Japan）とは、「糖尿病治療にもっとも大切な自己管理（療養）を患者に指導する医療スタッフで、高度で幅広い専門知識をもち、患者の糖尿病セルフケアを支援する」ことが役割です。糖尿病の臨床における生活指導のエキスパートであることを意味し、糖尿病とその療養指導全般に関する正しい知識を持ち、医師の指示の下で各専門職種が患者さんに療養指導を行います。

私はベルランド総合病院の管理栄養士としてさまざまな診療科を担当させて頂きました。栄養管理や栄養指導を行う中で糖尿病の患者さんが多いことや、内分泌・代謝科を担当した時に血糖コントロールの難しさを改めて痛感し、机上では学ぶことのできないことをたくさん経験しました。糖尿病療養指導士を志すきっかけとなったのも先輩療養指導士の後押しや、多くの患者さんと接することで、糖尿病についてもっと深く学びたいという想いが強くなったからです。

今回は看護師、薬剤師、管理栄養士の4名が糖尿病療養指導士の資格を取得しました。受験では他職種の専門的な知識の把握が求められるため、その点に最も苦戦しました。幸い3職種が受験することでお互いの苦手分野を勉強会で1つ1つ解決でき、更に内分泌・代謝科の八木部長、飯塚先生にもご指導頂き、より理解を深めて臨むことができました。

当院では週1回、医師をはじめ看護師、薬剤師、管理栄養士、臨床検査技師など多職種でカンファレンスを実施し治療方針や情報を共有しています。看護師や薬剤師と密に関わることで他職種の指導内容なども把握でき、より広い視野で患者さんと向き合え、質の高い療養指導が行えます。今後も多職種とのチームワークを最大限に発揮し、患者さん個々に応じた療養指導が行えるよう努めていきたいと考えています。

管理栄養士 田中 実穂

地域の先生向けの  
勉強会・セミナーを定期的に開催しています



多職種  
カンファレンス

専門職それぞれの視点から  
患者さんにとってよりよい治療を検討します

ベルランド総合病院では、地域の先生向けの糖尿病セミナーを定期的に開催しています。随時、HPなどで日時をお知らせいたしますので、どうぞよろしく  
お願いいたします。

『堺市地域連携糖尿病の会』にて



内分泌・代謝科  
部長 八木 稔人